

IBM® WebSphere® Commerce
for IBM eServer iSeries 400



クイック・スタート

バージョン 5.4

IBM® WebSphere® Commerce
for IBM eServer iSeries 400



クイック・スタート

バージョン 5.4

ご注意!

本書、および本書で紹介する製品をご使用になる前に、63 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書の内容は、新版で特に指定のない限り IBM® WebSphere Commerce for IBM @server iSeries 400® バージョン 5.4 以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。製品のレベルにあった版を使用していることをご確認ください。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

原典：	GC09-4954-00 IBM WebSphere® Commerce for IBM @server iSeries 400 Quick Beginnings Version 5.4
発行：	日本アイ・ビー・エム株式会社
担当：	ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2002.6

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1996, 2002. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2002

目次

第 1 部 WebSphere Commerce のインストールの準備 1

第 1 章 WebSphere Commerce へようこそ	3
本書の表記規則	3
インストール・パス	3
サポートされる Web ブラウザー	4
WebSphere Commerce で使用されるポート番号	4
WebSphere Commerce で使用されるロケール	5
ユーザー ID、パスワード、および Web アドレスの早見表	5

第 2 章 インストール前の要件	9
知識に関する要件	9
前提条件となるハードウェア	9
前提条件となるソフトウェア	10
iSeries ユーザー・プロファイルの作成	11

第 2 部 WebSphere Commerce のインストール 13

第 3 章 iSeries 独自の概念を理解する	15
WebSphere Commerce の使用する OS/400 ファイル・システム	15
QSYS.LIB ファイル・システム	15
ルート・ファイル・システム	17
データベース・レイアウトの照会	17

第 4 章 IBM WebSphere Commerce のインストール 19

IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2	19
Payment Manager をインストールする前に	19
Payment Manager のインストール	19
WCSRealm の使用可能化	20
Payment Manager カセットのインストール	21
WebSphere Application Server 4.0 のインストール	21
WebSphere Commerce のインストール	26

第 3 部 WebSphere Commerce の構成作業 29

第 5 章 クイック構成コマンドによるインスタンスの作成	31
前提事項と制約事項	31
クイック構成コマンドの起動	32
インスタンス作成の検証	34
JavaServer™ Pages ファイルのコンパイル	34

次のステップ 35

第 4 部 WebSphere Commerce によるストアの作成 37

第 6 章 サンプル・ストア・アーカイブからストアを作成する	39
ストア・アーカイブの作成	40
ストア・アーカイブの発行	41
ストア・サービスからストア・アーカイブを発行する	41
ストアにテスト・オーダーを発行する	43

第 5 部 付録 45

付録 A. コンポーネントの開始と停止 . . . 47

WebSphere Commerce インスタンスを開始する	47
機密保護機能のある環境での STRWCSSVR および ENDWCSSVR の使用	49
WebSphere Commerce インスタンスの停止	50
IBM HTTP Server の開始と停止	50
IBM HTTP Server インスタンスの開始	50
IBM HTTP Web Server インスタンスの停止	52
IBM HTTP Administrator の開始と停止	53
Payment Manager の開始と停止	54
Payment Manager Engine の開始	54
Payment Manager ユーザー・インターフェースへのアクセス	55
Payment Manager の停止	55

付録 B. 情報の入手場所 57

WebSphere Commerce の情報	57
オンライン・ヘルプの使用	57
印刷可能なドキュメンテーションの入手方法	57
WebSphere Commerce Web サイトの閲覧	57
IBM HTTP Server の情報	58
Payment Manager の情報	58
WebSphere Application Server	59
DB2 ユニバーサル・データベースの情報	59
ダウンロード可能なツール	59
WebSphere Commerce Installation and Configuration Checker	59
その他の IBM 出版物	59

付録 C. プログラム仕様と所定稼働環境 . . . 61

特記事項	63
商標	65

第 1 部 WebSphere Commerce のインストールの準備

第 1 章 WebSphere Commerce へようこそ

本書では、単一のマシンに WebSphere Commerce 5.4 の主要コンポーネントをインストールして構成する方法、そしてサンプルのストアの 1 つを作成する方法について説明します。対象となる読者は、システム管理者など、インストール作業と構成作業を実行する人です。拡張構成のシナリオの詳細は、*WebSphere Commerce 5.4 インストール・ガイド* を参照してください。

WebSphere® Commerce Studio のインストールと構成の手順については、*IBM WebSphere Commerce Studio for Windows NT® and Windows® 2000 インストール・ガイド* をご覧ください。

製品に加えられた最新の変更事項については、README ファイルをご覧ください。そのファイル、および本書の更新済みコピーは、WebSphere Commerce の Web サイトの「Library」→「Technical Library」のセクションから PDF ファイルの形式で入手できます。その Web サイトは、以下のとおりです。

<http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/library.html>

本書の表記規則

本書では、以下の規則を使用しています。

太文字	フィールド名、アイコン名、またはメニュー選択項目などのグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) のコントロール、またはコマンドを示します。
モノスペース (Monospace)	示されているとおりに入力するテキスト例、ファイル名、ディレクトリー・パスおよび名前を示します。
イタリック	用語を強調するのに使用します。また、実際のシステムに合わせて該当する値に置き換えることが必要な名前を示す場合もあります。
<i>host_name</i>	WebSphere Commerce サーバーの完全修飾ホスト名 (たとえば <code>server1.torolab.ibm.com</code> は完全修飾名)。
<i>instance_name</i>	作業対象の WebSphere Commerce インスタンスの名前。

インストール・パス

本書でインストール・パスについて述べられている場合、デフォルトのパス名として次のものを使用します。

WebSphere Commerce 5.4	/QIBM/ProdData/WebCommerce
WebSphere Application Server 4.0	/QIBM/ProdData/WebAsAdv4

サポートされる Web ブラウザー

WebSphere Commerce のツールとオンライン・ヘルプには、WebSphere Commerce のマシンと同じネットワーク上において Windows オペレーティング・システムが実行されているマシンにおいて、Microsoft® Internet Explorer 5.5 を使用してのみアクセスできます。Internet Explorer は、5.50.4522.1800 のフル・バージョンのもの (Internet Explorer 5.5 Service Pack 1 およびインターネット・ツール) に対して Microsoft による最新の重要なセキュリティー更新を適用したものを使用する必要があります。それより前のバージョンでは、WebSphere Commerce のツールが完全にサポートされていません。

顧客は、以下のいずれかの Web ブラウザーを使用して Web サイトにアクセスできます。これらは、すべて WebSphere Commerce でテスト済みです。

- Netscape Navigator® 4.7
- Microsoft Internet Explorer 5.5

WebSphere Commerce で使用されるポート番号

以下に、WebSphere Commerce またはそのコンポーネント製品によって使用されるデフォルトのポート番号のリストを示します。WebSphere Commerce 以外のアプリケーションでは、これらのポートを使用しないようにしてください。システムにファイアウォールが構成されている場合には、これらのポートがアクセス可能になっていることを確認してください。

ポート番号	使用するソフトウェア
80	IBM HTTP Server
443	IBM HTTP Server。このセキュア・ポートは SSL が必要です。
900	WebSphere Application Server ブートストラップ
1099	WebSphere Commerce 構成マネージャー
2222	ユーザー wasuser としてアクセスされる WebSphere Application Server。
8000	WebSphere Commerce Tools。このセキュア・ポートは SSL が必要です。
8080	WebSphere Test Environment for VisualAge® for Java™
9000	WebSphere Application Server Location Server
16900	WebSphere Commerce 用に予約された、ダミーの非 SSL ポート番号。
16999	WebSphere Commerce Cache Daemon (デフォルト)

WebSphere Commerce で使用されるロケール

WebSphere Commerce では、有効な Java のロケールだけが使用されます。使用する言語に該当するロケールがシステムにインストールされていることを確認してください。また、ロケールに関係するすべての環境変数には、WebSphere Commerce でサポートされているロケールを含めるようにしてください。WebSphere Commerce

でサポートされているロケールのコードは、以下の表に示すとおりです。

言語	ロケール・コード
ドイツ語	de_DE
英語	en_US
スペイン語	es_ES
フランス語	fr_FR
イタリア語	it_IT
日本語	ja_JP
韓国語	ko_KR
ポルトガル語 (ブラジル)	pt_BR
中国語 (簡体字)	zh_CN
中国語 (繁体字)	zh_TW

ユーザー ID、パスワード、および Web アドレスの早見表

WebSphere Commerce 環境での管理には、さまざまなユーザー ID が必要です。それらのユーザー ID と、それに必要な権限のリストを、次の表に示します。各 WebSphere Commerce ユーザー ID ごとにデフォルトのパスワードを示しています。

ユーザー ID	デフォルト値	備考
iSeries ユーザー・プロファイル		<p>WebSphere Commerce をインストールして構成するとき、以下の 2 つの iSeries ユーザー・プロファイルが頻繁に使用および参照されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> WebSphere Commerce のインストール、および構成マネージャーへのアクセスのために作成して使用するユーザー・プロファイル。WebSphere Commerce をインストールして構成するには、iSeries ユーザー・プロファイル USRCLS(*SECOFR) または QSECOFR ユーザー・プロファイルを使用する必要があります。ユーザー・プロファイルを作成する必要がある場合は、11 ページの『iSeries ユーザー・プロファイルの作成』を参照してください。 WebSphere Commerce インスタンス作成時に構成マネージャーによって作成されるユーザー・プロファイル。このユーザー・プロファイルは、「インスタンス・ユーザー・プロファイル」とも呼ばれます。WebSphere Commerce インスタンスを作成するたびに、ユーザー・プロファイル USRCLS(*USER) が構成マネージャーによって作成されます。ユーザー・プロファイルを作成する必要がある場合は、11 ページの『iSeries ユーザー・プロファイルの作成』を参照してください。

構成マネージャーのユーザー ID	構成マネージャーのデフォルト・ユーザー ID およびパスワードは、webadmin および webibm です。	構成マネージャー・ツールのグラフィカル・インターフェースを使用すれば、WebSphere Commerce の構成方法を変更できます。構成マネージャーには、Microsoft Internet Explorer 5.5 をサポートし、WebSphere Commerce マシンと同じネットワークにある任意のマシンからアクセスできます。
WebSphere Commerce インスタンス管理者	<p>インスタンス管理者のデフォルト・ユーザー ID は wcsadmin、デフォルト・パスワードは wcsadmin です。</p> <p>注: wcsadmin ユーザー ID は、決して削除しないでください。また、それには常にインスタンス管理者の権限が付与されていない限りなりません。</p>	<p>インスタンス管理者のユーザー ID とパスワードは、以下の WebSphere Commerce ツールに適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • WebSphere Commerce Accelerator。Windows オペレーティング・システムが実行されているリモート・マシンから WebSphere Commerce Accelerator にアクセスするには、Internet Explorer Web ブラウザーをオープンしてから、以下の Web アドレスを入力します。 <code>https://host_name:8000/accelerator</code> • WebSphere Commerce 管理コンソール。Windows オペレーティング・システムが実行されているリモート・マシンから WebSphere Commerce 管理コンソールにアクセスするには、Internet Explorer Web ブラウザーをオープンしてから、以下の Web アドレスを入力します。 <code>https://host_name:8000/adminconsole</code> • ストア・サービス。ストア・サービスのページには、Web ブラウザーをオープンし、以下の Web アドレスを入力することによってアクセスできます。 <code>https://host_name:8000/storeservices</code> <p>WebSphere Commerce では、ユーザー ID とパスワードが次の規則になっていることが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • パスワードの長さは最低 8 文字。 • パスワードには、少なくとも 1 つの数字が含まれなければなりません。 • パスワードには、同じ文字が 4 回を超えて出現してはなりません。 • パスワードには、同じ文字を 3 回を超えて繰り返すことはできません。

<p>Payment Manager 管理者</p>	<p>Payment Manager をインストールする時点で、WebSphere Commerce 管理者 ID wcsadmin に Payment Manager 管理者役割が自動的に割り当てられます。ログオン・ユーザー ID wcsadmin は削除したり名前を変更したりしないでください。また、wcsadmin に事前に割り当てられている Payment Manager の役割は変更しないようにしてください。もし変更すると、Payment Manager の整合性に関連した WebSphere Commerce の機能が動作しなくなります。</p>	<p>Payment Manager 管理者役割が割り当てられているユーザー ID では、Payment Manager の制御と管理が可能です。</p>
----------------------------	---	---

第 2 章 インストール前の要件

このセクションでは、WebSphere Commerce をインストールする前に実行しておくことの必要なステップについて説明します。

重要

正常にインストールするためには、ここで説明するインストールの前提となるすべてのステップを実行しなければなりません。

知識に関する要件

WebSphere Commerce をインストールおよび構成するには、以下のことに関する知識が必要です。

- 使用するオペレーティング・システム
- インターネット
- Web サーバーの運用と保守
- IBM DB2[®] for iSeries
- WebSphere Application Server 管理コンソール
- オペレーティング・システムの基本的なコマンド

ストアを作成しカスタマイズするには、以下のことに関する知識が必要です。

- WebSphere Application Server
- IBM DB2 for iSeries
- HTML および XML
- 構造化照会言語 (SQL)
- Java のプログラミング

ストアまたはモールのカスタマイズについては、*WebSphere Commerce プログラマーズ・ガイド* および *WebSphere Commerce ストア開発者ガイド* をご覧ください。WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Studio には、いずれもこれらのマニュアルが付属しています。

前提条件となるハードウェア

WebSphere Commerce をインストールする前に、以下の最低限のハードウェア要件を満たしていることを確認してください。

- 以下のサーバーのいずれか (推奨最低限)。
 - AS/400e Server 170 型、プロセッサ・フィーチャー 2385
 - AS/400e Server 720 型、プロセッサ・フィーチャー 2062
 - iSeries Server 270 型、プロセッサ・フィーチャー 2252
 - iSeries Server 820 型、プロセッサ・フィーチャー 2396

- 1 GB のメモリー (それ以上を推奨)

注: サポートされるユーザーの数が限定されていて、サーバー初期化時間が長くてもかまわない環境では、これらの最低要件を満たさないシステムであっても使用できます。

さらに、以下のものがが必要です。

- Windows オペレーティング・システムが実行されているワークステーションで、グラフィックス表示可能モニターで Internet Explorer などの Web ブラウザーを実行できるもの。
- マウスまたはその他のポインティング・デバイス
- Transmission Control Protocol/Internet Protocol (TCP/IP) プロトコルをサポートするローカル・エリア・ネットワーク (LAN) アダプター。

前提条件となるソフトウェア

WebSphere Commerce をインストールする前に、以下の最低限のソフトウェア要件を満たしていることを確認してください。

- OS/400[®] バージョン 5 リリース 1 またはそれ以降 (無制限の状態のもの)
- IBM Developer Kit for Java (TM) (5722-JV1)、バージョン 1.3 (オプション 5)
- AS/400 Toolbox for Java (5722-JC1)
- WebSphere Application Server スクリプトを使用する場合、および WebSphere Application Server をローカル・インストールする (iSeries[™] サーバーの CD-ROM から iSeries へインストールする) 場合には、OS/400 Qshell Interpreter (5722-SS1 オプション 30) が必要です。
- WebSphere Application Server をリモート・インストールする (ワークステーションの CD-ROM から iSeries サーバーへインストールする) 場合は、OS/400 Host Servers (5722-SS1 オプション 12) が必要です。ホスト・サーバーを開始するには、Start Host Server (STRHOSTSVR) コマンドを使用できます (OS/400 コマンド行から STRHOSTSVR *ALL と入力します)。iSeries 上で QSERVER サブシステムが実行されていなければなりません。
- WebSphere Application Server をインストール、構成、実行するために、OS/400 ディレクトリー・サービス (5722-SS1 オプション 32) は必要ではありません。ただし、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) または Lightweight Third-Party Authentication (LTPA) を使用する WebSphere リソースを保護したい場合には、これをインストールしてください。OS/400 ディレクトリー・サービスを使用すると、LDAP および LTPA 用のユーザー登録情報を保管して管理することができます。
- WebSphere Application Server を構成して実行するには、IBM TCP/IP Connectivity Utilities for iSeries (5722-TC1) が必要です。さらに、リモート・インストールの場合 (ワークステーションの CD-ROM から iSeries サーバーに WebSphere Application Server をインストールする場合) にも、これが必要です。iSeries で TCP/IP を開始するには、OS/400 コマンド行で TCP/IP 開始 (STRTCP) コマンドを入力してください。
- HTTP サーバー製品は、インストールの際には必要ありません。ただし、WebSphere Application Server の管理するサーブレットや JavaServer Pages (JSP)

リソースへの要求をサポートするためには、HTTP サーバーが必要です。さらに、Secure Sockets Layer (SSL) プロトコルを使用する場合にも、必要とされます。Enterprise Bean のみデプロイする場合、HTTP サーバーは不要です。WebSphere Commerce は IBM HTTP Server for iSeries (5722-DG1) をサポートします - V5R1 以上のサーバーの場合。

- OS/400 デジタル証明書マネージャー (5722-SS1 オプション 34) は、インストールの際には必要ありません。ただし SSL プロトコルを使用する場合には、これが必要です。
- Cryptographic Access Provider 製品はインストールの際には必要ありませんが、SSL プロトコルを使用する場合には必要です。5722-AC3 (128 ビット) をインストールする必要があります。
- ローカル・データベースへの接続を予定している場合、DB2 ユニバーサル・データベース (Universal Database™ (UDB)) for iSeries または DB2 UDB for AS/400 は、WebSphere Application Server for iSeries と一緒に稼働するように構成しなければなりません。
- DB2 (R) Query Manager and SQL Development Kit for iSeries (5722-ST1) は、クライアント・アプリケーションの開発に役立つオプション製品です。

iSeries ユーザー・プロファイルの作成

WebSphere Commerce をインストールする前に、ユーザー・プロファイル QSECOFR、または iSeries ユーザー・プロファイル USRCLS(*SECOFR) にアクセスできるかどうかを確認してください。

iSeries ユーザー・プロファイルを作成する必要がある場合には、OS/400 コマンド行、または Client Access を使用することができます。コマンド行を使用する場合、以下のようにしてユーザー・プロファイルを作成します。

1. CRTUSRPRF を入力します。
2. PF4 を押してプロンプトを表示させます。
3. 必要なパラメーターを入力した後、Enter を押して新しいユーザー・プロファイルを作成します。

Client Access を使用する場合、以下のようにしてユーザー・プロファイルを作成します。

1. ナビゲーション・ツリーの中で、新規ユーザーを作成する iSeries サーバーをダブルクリックします。
2. 「**Users and Groups (ユーザーおよびグループ)**」をダブルクリックします。
3. 「**All Users (すべてのユーザー)**」をクリックします。iSeries のすべてのユーザーのリストが右側のパネルに表示されます。
4. 「**All Users (すべてのユーザー)**」を右クリックして、「**New User (新規ユーザー)**」を選択します。「New User (新規ユーザー)」ウィンドウがオープンします。
5. 必要な情報を入力した後、Enter を押してユーザー・プロファイルを作成します。

第 2 部 WebSphere Commerce のインストール

第 3 章 iSeries 独自の概念を理解する

この章では、IBM @server iSeries 400 および OS/400 オペレーティング・システム独自の概念について説明します。以下のような内容です。

- Integrated File System (IFS) の中のさまざまなファイル・システムに関する説明
- WebSphere Commerce システムのファイル編成

WebSphere Commerce の使用する OS/400 ファイル・システム

JSP や HTML ファイルなどの Web 資産をどこに保管するか、また、それに対応するファイル・サーバーをどのように構成するかを決定するために、*Integrated File System (IFS)* を理解しておくことは重要です。

ファイル・システムは、記憶装置の中で、論理単位として編成された特定のセグメントにアクセスする方法を提供します。このような論理単位には、ファイル、ディレクトリー、フォルダー、ライブラリー、オブジェクトがあります。

それぞれのファイル・システムには、保管されている情報と対話するための論理構造や規則があります。このような構造や規則は、ファイル・システムごとに異なります。構造や規則の観点から見ると、データベース・ファイルその他のオブジェクト・タイプにライブラリーを介してアクセスする OS/400 の機構は、1 つのファイル・システムと考えることができます。同様に、(実際にはストリーム・ファイルである) さまざまな文書にフォルダー構造を介してアクセスする OS/400 の機構もまた、別のファイル・システムのような動作をします。

Integrated File System (IFS) は、ライブラリー・サポートとフォルダー・サポートを別々のファイル・システムとして扱います。その他の種類の OS/400 ファイル管理サポートとそれら独自の機能もまた、別個のファイル・システムとして機能します。以下では、WebSphere Commerce の使用する iSeries ファイル・システムについて説明します。その他の OS/400 ファイル・システムに関する情報は、お手元の OS/400 資料を参照してください。

WebSphere Commerce は、Integrated File System に含まれる 2 つの異なるファイル・システム (*QSYS.LIB* ライブラリー・ファイル・システム、および *root* ファイル・システム) に情報を保管します。

QSYS.LIB ファイル・システム

QSYS.LIB ライブラリー・ファイル・システムは、iSeries のライブラリー構造をサポートします。このファイル・システムは、ライブラリー・サポートによって管理されるデータベース・ファイルその他の iSeries オブジェクト・タイプへのアクセスを提供します。

インストールおよび構成のプロセスによって、QWEBCOMM ライブラリーが QSYS.LIB ファイル・システム内に作成されます。この中には、以下のタイプのオブジェクトが含まれます。

*PGM
*SRVPGM
*MSGF
*FILE - QYWCTXTSRC (Contains the README)
*CMD
*PNLGRP
*PRDDFN
*PRDLOD

ルート・ファイル・システム

ルート (つまり /) ファイル・システムは、Integrated File System における階層ディレクトリー構造とストリーム・ファイル・サポートを利用しています。ルート・ファイル・システムは、DOS および OS/2[®] ファイル・システムの特徴を持っています。

WebSphere Commerce は、分割されたルート・ファイル構造を使用します。WebSphere Commerce の使用するデータで、ユーザーが変更できる (またはユーザーが構成する必要のある) データはすべて、UserData サブディレクトリーに置かれます。一方、すべての WebSphere Commerce プロプラエタリー・データは ProdData サブディレクトリーの中に置かれます。この方法の目的は、2 種類の情報を明確に区別し、将来のマイグレーションをできる限り簡単に、それぞれに含まれるファイルの処理を可能にすることです。

注:

1. ユーザーが変更できるのは、インスタンス・ルート・パス (デフォルトでは /QIBM/UserData/WebCommerce/instances/*instance_name*) の中にあるファイルだけです。
2. インスタンスのエンタープライズ・アプリケーションがデプロイされると、JSP ファイルその他の資産はすべて以下の場所に保管されます。

```
/QIBM/UserData/WebASAdv4/was_instance_name/installedApps/  
WC_Enterprise_App_instance_name.ear
```

このディレクトリーの中にあるファイルもまた、変更することができます。

特定のインスタンスに関連して WebSphere Commerce を構成するとき、構成マネージャーは、選択された構成オプションに必要なすべてのファイルを UserData パスにコピーします。ユーザーは、以下のパスにあるオリジナル・ファイルを変更すべきではありません。

```
/QIBM/ProdData/WebCommerce
```

重要: PTF の適用や製品の再インストールによって、ProdData ディレクトリー・パス内のファイルが削除または上書きされる可能性があります。したがって、カスタマイズしたファイルを ProdData ディレクトリー・パスの中には保管しないでください。

以下の表に示されているのは、WebSphere Commerce のインストールと構成のプロセスで作成され、ルート・ファイル・システムに保管されるディレクトリーおよびストリーム・ファイルです。ディレクトリー・パス */instance_root/* は、ディレクトリー・パス */QIBM/UserData/WebCommerce/instances/*instance_name** を表します (*instance_name* は、構成時にユーザーが提供する名前)。

パス	内容
/instance_root/xml/instance_name.xml	インスタンス構成ファイル。このファイルには、WebSphere Commerce サーバーの構成設定値が含まれます。
/instance_root/web	IBM HTTP Server 文書のルート・ディレクトリー。
/QIBM/UserData/WebASAdv4/WAS_instance_name/ installedApps/WC_Enterprise_App_Inst_name.ear	インスタンスのプロパティ・ファイルが保管されるディレクトリー。カスタマイズした資産の正確な保管場所については、 <i>WebSphere Commerce プログラマーズ・ガイド</i> を参照してください。
/instance_root/logs	WebSphere Commerce ログ・ファイルが保管されるディレクトリー。
/instance_root/xml	WebSphere Commerce インスタンス構成 XML ファイルが保管されるディレクトリー。
/instance_root/cache	インスタンスのキャッシュ・ファイルが保管されるディレクトリー。
/instance_root/sar	WebSphere Commerce ストア・アーカイブ・ファイルが保管されるディレクトリー。

データベース・レイアウトの照会

SQL ステートメントを使って、データベース・レイアウトに関する情報を照会することができます。DB2/400 Query Manager and SQL Development Kit、または Operations Navigator for iSeries を使用することができます。データベース照会を実行するために Client Access™ を使用する場合は、以下のようにします。

- Operations Navigator for iSeries がインストールされているマシンから、Operations Navigator を開始します。
- 「データベース」アイコンを右クリックして、「Run SQL Scripts (SQL スクリプトの実行)」を選択します。「Run SQL Scripts (SQL スクリプトの実行)」ウィンドウがオープンします。
- ウィンドウに、必要な SQL ステートメントを入力します。たとえば、
 - データベース内のすべてのテーブルをリストするには、以下のように入力します (全体を 1 行で、大文字のみ)。

```
SELECT TABLE_NAME FROM QSYS2.SYSTABLES WHERE
TABLE_SCHEMA='DB_SCHEMA_NAME'
```
 - 特定のテーブルに含まれる列をリストするには、以下のように (全体を 1 行で) 入力します。

```
SELECT * FROM QSYS2.SYSCOLUMNS WHERE TABLE_SCHEMA='DB_SCHEMA_NAME'
AND TABLE_NAME='TABLE_NAME'
```
 - 特定のテーブルに含まれるレコードを表示するには、以下のように入力します。

```
SELECT * FROM 'DB_SCHEMA_NAME'.'TABLE_NAME'
```

ここで

'DB_SCHEMA_NAME'

インスタンス・データベースの名前。

'TABLE_NAME'

照会したいデータベース・テーブルの名前。

これらの SQL ステートメントや他の SQL ステートメントについての詳細は、*AS/400® DB2 UDB for AS/400 SQL Reference Information (SC41-5612-04)* を参照してください。

第 4 章 IBM WebSphere Commerce のインストール

この章では、WebSphere Commerce システムを iSeries にインストールする方法について説明します。インストールを始める前に、11 ページの『iSeries ユーザー・プロファイルの作成』に示されているステップが完了したことを確認してください。

重要

9 ページの『第 2 章 インストール前の要件』に示されている要件を満たすことは重要です。要件を満たしていない場合、インストール・プロセスで障害が発生する可能性があります。さらに、(WebSphere Commerce メディア・キットの中に入っている) ご使用条件も確認してください。

以下では、単層構成で WebSphere Commerce をインストールする方法について説明します。より複雑な構成についての説明は、*WebSphere Commerce インストール・ガイド* を参照してください。

IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2

IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 は、プロトコルに依存しない、オンライン・マーチャント用の支払いトランザクション・サーバーです。Payment Manager はサイトのキャッシュ・レジスター機能を提供し、プロトコル固有のカセットを使用してさまざまな支払いメソッドをサポートします。これらのカセットは Payment Manager フレームワークに追加できるソフトウェア・コンポーネントです。カセットを使用することにより、一般的な支払いコマンドや管理コマンドが支払いプロトコル固有の要求に変換され、それらの要求は適切な宛先 (たとえば決済機関の Payment Gateway) に転送されます。最終的な結果は、通常の商店のレジで店員がクレジット・カードを使って決済する場合と同じになります。

Payment Manager をインストールする前に

最新の README ファイル `readme.framework.html` をお読みください。最新のファイルは、以下の Web アドレスの Payment Manager Web サイトから入手できます。

www.ibm.com/software/webservers/commerce/paymentmanager/support/readme31.html

Payment Manager のインストール

ローカル Payment Manager インスタンスを使用するためには、WebSphere Commerce マシン上に Payment Manager をインストールしてください。Payment Manager をインストールするには、以下のようになります。

1. Payment Manager CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
2. ライセンス・プログラムの回復 (**RSTLICPGM**) コマンドを使用して、iSeries 製品用の Payment Manager をインストールします。

3. Payment Manager の製品番号と、製品のインストール元デバイスを指定します。
たとえば RSTLICPGM LICPGM(5733PY3) DEV(OPT01) と指定します。

WCSRealm の使用可能化

CRTPYMMGR コマンドを使って、Payment Manager インスタンスを作成すると、サポート用のデフォルト・レルムとして PSOS400Realm が生成されます。しかし、Payment Manager インスタンスを作成してから WCSRealm を使用することもできます。そのためには、管理コンソールから Payment Manager を手作業で構成する必要があります。システムで WCSRealm を使用するための構成手順は、次のとおりです。

1. Payment Manager マシンで、WebSphere Application Server 管理コンソールを開始します。
2. WebSphere Payment Manager Application Server を停止します。
 - a. 「**WebSphere Administrative Domain (WebSphere 管理可能ドメイン)**」を展開します。
 - b. 「**Nodes (ノード)**」を拡張表示します。
 - c. ノード名 を展開します。
 - d. 「**Application Servers (アプリケーション・サーバー)**」を拡張表示します。
 - e. 「**WPM instance_name WebSphere Payment Manager**」を選択してから、「**停止**」をクリックします。
3. 「**JVM 設定**」タブを選択して、「システム・プロパティ」ボックスが表示されるまで下にスクロールします。 **wpm.RealmClass** システム・プロパティを選択して、

```
com.ibm.etill.framework.payserverapi.PSOS400Realm
```

を次のように変更します。

```
com.ibm.commerce.payment.realm.WCSRealm
```

「**適用**」をクリックします。

4. Payment Manager インスタンス・ディレクトリー
/QIBM/UserData/PymSvr/instance_name/ で、WCSRealm.properties という ASCII ファイルを作成してから、以下の項目を追加します。

```
WCSHostName=domain-qualified host_nameUseNonSSLWCSCClient=[0|1]  
WCSWebServerPort=port_number  
WCSWebPath=/webapp/wcs/stores/servlet
```

注:

- a. NonSSL を使用している場合は UseNonSSLWCSCClient を 1 に、SSL を使用している場合は 0 にそれぞれ設定します。
- b. UseNonSSLWCSCClient=1 の場合は WCSWebServerPort を NonSSL WebSphere Commerce ポート番号 (たとえば 80) に、UseNonSSLWCSCClient=0 の場合は SSL WebSphere Commerce ポート番号 (たとえば 443) にそれぞれ設定します。

そのファイルを保管します。

5. iSeries セッションから以下のコマンドを実行して、WCSRealm.jar を Payment Manager インスタンスの ear ディレクトリーにコピーします。

```
CPY OBJ('/QIBM/ProdData/PymSvr/Java/WCSRealm.jar')
TOOBJ('/QIBM/UserData/WebASAdv4/server/installedApps/
payment_instance_name_IBM_PaymentManager.ear/WCSRealm.jar')
```

ここで、`server` は Payment Manager インスタンスを実行している WebSphere Application Server の名前、`payment_instance_name` は Payment Manager インスタンスの名前です。

6. iSeries セッションから Payment Manager インスタンスを再始動します。Payment Manager インスタンスを終了するには、以下のコマンドを使用します。
`ENDPYMMGR PYMMGR(payment_instance_name) PWD(payment_instance_password)`

Payment Manager インスタンスを開始するには、以下のコマンドを使用します。
`STRPYMMGR PYMMGR(payment_instance_name) PWD(payment_instance_password)`

ここで、`payment_instance_password` は、Payment Manager インスタンスの作成時に `CRTPYMMGR` コマンド用として指定したパスワードです。

WCSRealm の詳細については、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプを参照してください。

Payment Manager カセットのインストール

Payment Manager をインストールする場合、付属のカセットと一緒にインストールすることもできます。カセットをインストールするには、以下のステップを実行してください。

1. Payment Manager CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
2. ライセンス・プログラムの回復 (**RSTLICPGM**) コマンドを使用して、iSeries 製品用の Payment Manager SET、CyberCash、VisaNet、または BankServACH カセットをインストールします。
3. Payment Manager の製品番号、製品のインストール元デバイス、およびインストールするカセットを表す適切なオプション番号を指定します。
 - SET カセットをインストールするには、以下のように入力します。
`RSTLICPGM LICPGM(5733PY3) DEV(OPT01) OPTION(1)`
 - CyberCash カセットをインストールするには、以下のように入力します。
`RSTLICPGM LICPGM(5733PY3) DEV(OPT01) OPTION(2)`
 - VisaNet カセットをインストールするには、以下のように入力します。
`RSTLICPGM LICPGM(5733PY3) DEV(OPT01) OPTION(3)`
 - BankServACH カセットをインストールするには、以下のように入力します。
`RSTLICPGM LICPGM(5733PY3) DEV(OPT01) OPTION(4)`

WebSphere Application Server 4.0 のインストール

インストール・プロセスは以下の 2 つのステップから成ります。

1. WebSphere Application Server ランタイム環境を iSeries サーバーにインストールする。
2. WebSphere 管理コンソール・コンポーネントをワークステーションにインストールする。

製品を iSeries サーバーにインストールする前に管理コンソールだけをインストールすることも可能ですが、WebSphere Application Server 環境を正常にインストールして開始するまでは、管理コンソールを開始できません。

WebSphere Application Server を iSeries サーバーにインストールし、WebSphere 管理コンソールをワークステーションにインストールするためには、以下のステップを完了してください。

1. 以下のようにして、WebSphere Application Server 環境を iSeries サーバーにインストールします。

a. iSeries サーバーの前提条件ソフトウェアが揃っていることを確認します。10 ページの『前提条件となるソフトウェア』を参照してください。

b. WebSphere Application Server 製品をインストールします。

1) WebSphere Application Server 4.0 Advanced Edition for iSeries の CD-ROM を、iSeries サーバーの CD-ROM ドライブに入れます。

注:

a) このステップでは、WebSphere Application Server Advanced Edition for Windows NT、AIX、Solaris、または Linux 用の CD-ROM を使用しないでください (WebSphere Application Server Advanced Edition for iSeries パッケージには、これらの CD-ROM も含まれています)。

b) ユーザー・プロファイルには、*ALLOBJ 権限が必要です。

2) 以下のコマンドの全体を、連続する 1 行で正確に入力します。大文字小文字についても、以下のとおり正確に入力してください。

```
RUNJAVA CLASS(SETUP) CLASSPATH('/QIBM/ProdData/Java400/jt400ntv.jar:  
/QOPT/WebSphere/OS400:/QOPT/WebSphere/OS400/INSTALL.JAR:  
/QOPT/WebSphere') PROP((os400.runtime.exec QSHELL)  
(java.compiler jitc) (java.version 1.3))
```

注: 上記では、表示上の目的でコマンドを数行に分けています。実際には、1 つのコマンドとして入力してください。

c. 適切な OS/400 累積 PTF パッケージがインストール済みであることを確認します。

1) サーバーにサインオンします。

2) OS/400 コマンド行で、PTF 状況の表示 (**DSPPTF**) コマンドを入力します。リストの中で、状況が「**Temporarily applied (一時的に適用済み)**」と示されている最初の PTF が、サーバーにインストール済みの累積 PTF に該当します。

次のステップに進む前に、前提条件の OS/400 累積 PTF パッケージを注文してインストールする必要があります。

d. WebSphere Application Server の実行に必要な追加の PTF をインストールします。

WebSphere Application Server 製品のプログラム修正は、iSeries 用のグループ PTF (プログラム一時修正) として提供されています。初めて WebSphere を始動する前に、最新の WebSphere Application Server 4.0 for iSeries グループ PTF をロードして適用する必要があります。このグループ PTF には、WebSphere for iSeries 製品を最新レベル (本書の印刷時点では 4.0.2) にする最も新しい WebSphere for iSeries PTF が含まれています。さらにこのグルー

プ PTF には、他のグループ PTF や累積 PTF パッケージには含まれていない、IBM Developer Kit for Java、DB2 Universal Database for iSeries、および IBM HTTP Server 用の各種 PTF も含まれています。これらの各種 PTF をインストールしなければなりません。インストールしないまま管理サーバーを開始すると、障害が発生する可能性があります。

ご使用の WebSphere Application Server V4.0 エディション (Advanced または Advanced Single Server) および OS/400 のリリース・レベルに関して、どのグループ PTF を注文してインストールする必要があるかを、WebSphere Application Server Web サイトの PTF ページで確認してください。このページには、以下の URL の **PTF** リンクからアクセスできます。

www.ibm.com/servers/eserver/iseries/software/websphere/wsappserver/

グループ PTF パッケージをインストールする前に、すべての前提条件製品がインストール済みでなければなりません。たとえば、IBM Developer Kit for Java 1.3 (5722-JV1 オプション 5) がサーバーにまだインストールされていない場合、パッケージに含まれる Java PTF はインストールされません。前提条件が必ずしもすべてインストールされていない場合、WebSphere Application Server を開始すると障害が発生する可能性があります。

以下では、WebSphere Application Server for iSeries のグループ PTF をインストールする方法について説明します。

- 1) すべての前提条件ソフトウェアがインストール済みであることを確認します。
- 2) WebSphere for iSeries グループ PTF の CD-ROM を、iSeries サーバーの CD-ROM ドライブに挿入します。
- 3) システム・コンソールにサインオンします。ユーザー・プロファイルには、*ALLOBJ 権限が必要です。
- 4) 以下のコマンドを入力して、システムを制限状態にします。
ENDSBS SBS(*ALL)
- 5) システムが制限状態に入ったら、OS/400 コマンド行から以下のコマンドを入力します。
GO PTF
- 6) メニューから、オプション 8 (プログラム一時修正のインストール) を選択します。
- 7) 以下のパラメーター値を指定して、Enter キーを押します。
 - a) CD ROM ドライブ装置を指定します (たとえば OPT01)。
 - b) Automatic IPL: Y
 - c) PTF type: 1 (すべての PTF)

これによって、すべての PTF がインストールされた後、サーバーが再始動します。

- 8) リリース情報について、および既知の問題と解決方法については、グループ PTF のインストール後にインストールを予定している WebSphere バージョンの製品リリース情報 (Release Notes) をご覧ください。リリース情報は、WebSphere Application Server 4.0 Advanced Edition ドキュメンテーション・ページで入手できます。

2. 以下のようにして、 WebSphere 管理コンソールをワークステーションにインストールします。

a. 管理コンソール・コンポーネントをインストールします。

- 1) ワークステーションのオペレーティング・システム用の WebSphere Application Server 4.0 Advanced Edition CD-ROM を挿入します。たとえば、Windows NT をご使用の場合、 WebSphere Application Server 4.0 Advanced Edition for Windows NT の CD-ROM を挿入します。

注: このステップでは、 WebSphere Application Server 4.0 Advanced Edition for iSeries の CD-ROM を使用しないでください (iSeries 用 CD-ROM もまた、 WebSphere Application Server Advanced Edition for iSeries パッケージに含まれています)。

- 2) Windows ワークステーションで自動実行を使用可能にしている場合には、 Windows InstallShield プログラムが自動的に開始します。自動実行を使用可能にしていない場合は、 Windows InstallShield プログラムを実行するために、 Windows Explorer で CD-ROM ドライブまでナビゲートします。さらに setup.exe ファイルをダブルクリックします。

AIX、Solaris、HP-UX、または Linux ワークステーションをご使用の場合、オペレーティング・システムの名前が付いたサブディレクトリー (AIX、Solaris、HP、または Linux) に移動して、 .install.sh と入力すればインストール・スクリプト・ファイルが実行されます。

- 3) インストールする言語を選択して、「OK」を選択します。

- 4) 「次へ」をクリックしてください。

- 5) ワークステーション・マシンに以前のバージョンの WebSphere Application Server がインストールされていれば、「Previous Installation Detected (以前のバージョンを検出)」画面が表示されます。「次へ」をクリックして、新しいバージョンの WebSphere 管理コンソールをワークステーションにインストールします。

この画面が表示されない場合は、次のステップに進んでください。

- 6) 「インストール・オプション」画面で、「カスタム・インストール」を選択します。「次へ」をクリックしてください。

- 7) 「Choose Application Server Components (Application Server コンポーネントの選択)」画面で、「Administrator's Console and Application and Development Tools, and IBM JDK 1.3.0」を選択します。「次へ」をクリックしてください。

- 8) ホスト名を入力します。ホスト名を判別するには、 WebSphere Application Server 環境が開始済みであることを確認した後、以下のステップに従ってください。

- a) OS/400 コマンド行で、TCP/IP の構成 (CFGTCP) コマンドを入力します。

- b) オプション 12 (TCP/IP ドメイン情報の変更) を選択します。

- c) ホスト名の値を確認します。この値を、ホスト名パラメーターとして使用してください。

注: ホスト名は、iSeries に入力されていなければなりません。エントリーが存在しない場合、WebSphere 管理コンソールは接続されません。ホスト名エントリーが存在しない場合は、これを追加してください。

さらに、ホスト名パラメーターは大文字小文字を区別します。たとえば、iSeries 上のホスト名が小文字で指定されていれば、WebSphere 管理コンソールを iSeries サーバーに接続するときにも小文字を使用する必要があります。

ほとんどの単純なケースでは、これだけで十分です。より複雑なシステムで、複数の IP アドレス、複数の別名、または複数のドメイン・ネーム・システム (DNS) エントリーが存在する場合には、追加の TCP/IP の構成が必要かもしれません。

WebSphere 管理コンソールは、デフォルトでポート 900 を使用します。管理サーバーの開始時に `admin.bootstrapPort` パラメーターを使ってデフォルト・ポートを変更した場合、そのポートを WebSphere 管理コンソールに指定する必要があります。

- 9) 宛先ディレクトリーの名前を入力します。宛先ディレクトリーは、管理コンソールのインストール先となる、ワークステーション上のディレクトリーです。「次へ」をクリックしてください。
 - 10) 「Select Program Folder (プログラム・フォルダーの選択)」画面で、デフォルトのプログラム・フォルダー名を受け入れて「次へ」をクリックします。
 - 11) 選択したオプションを確認します。変更するには、「戻る」をクリックします。インストールを続けるには、「次へ」をクリックします。

「Installing IBM WebSphere Application Server (IBM WebSphere Application Server のインストール)」画面に、インストール・プロセスの進行状況が表示されます。
 - 12) インストール・プログラムはすべてのファイルをワークステーションにコピーして、必要な構成を行います。インストールが完了したら、「セットアップの完了」画面が表示されます。「終了」をクリックします。
- b. 管理コンソール用の適切な FixPak をインストールします。

管理コンソールの修正は、それぞれの管理コンソール・マシンにインストールする FixPak として提供されています。各 FixPak には、以前の FixPak からの修正が含まれています。たとえば、FixPak 2 には、FixPak 1 の修正に加えて、新しい修正が含まれています。

iSeries サーバー上にインストールされた WebSphere Application Server のバージョンと、管理コンソールのバージョンとを一致させるために、適切な FixPak を管理コンソール・ワークステーションにインストールする必要があります。たとえば、WebSphere Application Server バージョン 4.0.4 をインストールする場合、管理コンソールをバージョン 4.0.4 にアップグレードするために、FixPak 4 をインストールする必要があります。

どのレベルの WebSphere Application Server がインストールされているかを判別するには、`product.xml` ファイルの Edition、Version、および Build の値をそれぞれ比較します。ワークステーションでは、このファイルは `was_install_dir %properties%com%ibm%websphere` にあります

(`was_install_dir` は WebSphere のインストール先ディレクトリー)。 iSeries サーバー上では、このファイルは

`/QIBM/ProdData/WebASAdv4/properties/com/ibm/websphere` にあります。ワークステーションとサーバーのレベルが同じであれば、2つのファイルの Edition、Version、および Build の値が同じになります。

管理コンソールの FixPaks を入手してインストールする方法については、WebSphere Application Server 4.0 for iSeries のリリース情報をご覧ください。

注: FixPaks のインストール方法に関する説明は、リリース情報の「Installation Instructions (インストールに関する指示)」セクションにあります。


インストールのいずれかの部分で問題が発生した場合には、WebSphere Application Server ドキュメンテーション・センターのトラブルシューティング情報セクションを参照してください。

WebSphere Commerce のインストール

以下では、IBM WebSphere Commerce のインストール方法について説明します。このセクションのステップを進める前に、WebSphere Application Server をインストールしておく必要があります。

注: それぞれのソフトウェア CD に収録されている項目の詳細については、製品の README を参照してください。README は、以下のいずれかの URL で参照できます。


www.software.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_pe/lit-tech-general.html

 www.software.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_be/lit-tech-general.html

複数のマシンに WebSphere Commerce をインストールする場合、それぞれのマシンごとに以下のステップを繰り返してください。

WebSphere Commerce システムのすべてのコンポーネントをインストールするには、以下のようにします。

1. ソフトウェア要件に示されている製品をまだインストールしていない場合は、それらの製品に付属の資料を参照して製品をインストールしてください。
2. 11 ページの『iSeries ユーザー・プロファイルの作成』で作成したユーザー・プロファイルを使ってログオンします。
3. コマンド行で以下のコマンドを入力します。
`CHGMSGQ QSYSOPR *BREAK SEV(70)`
4. WebSphere Commerce CD を iSeries CD-ROM ドライブに挿入します。
5. コマンド行で `RSTLICPGM` と入力します。
6. PF4 を押してプロンプトを表示させます。
7. LICPGM フィールドに製品番号 (5733WC5) を入力し、DEV フィールドに装置名を入力します。

8. LNG フィールドに、インストールしたい言語フィーチャーのフィーチャー・コードを入力して、Enter を押します。
9. 1 次言語が英語以外になっているシステムに WebSphere Commerce をインストールする場合は、Load another volume into device OPTxx というメッセージに応答する必要があります。言語 MRI が入っている CD を CD ドライブに挿入してから、メッセージに応答してください。英語のみのシステムでは、そのまま次のステップに進みます。
10. *BASE がリストアされたことを示す確認メッセージが表示されます。
11. 英語以外の言語 MRI が入った CD を挿入した場合は、その CD を取り出してから、WebSphere Commerce CD を挿入します。
12. コマンド行で RSTLICPGM と入力します。
13. PF4 を押してプロンプトを表示させます。
14. LICPGM フィールドに製品番号 (5733WC5) を入力し、DEV フィールドに装置名を入力します。
15. 追加の WebSphere Commerce コンポーネントをインストールするために、OPTION (1) と RSTOBJ (*PGM) を入力してから、Enter を押します。オプション 1 がリストアされたことを示す確認メッセージが表示されます。
16. コマンド行で RSTLICPGM と入力します。
17. PF4 を押してプロンプトを表示させます。
18. LICPGM フィールドに製品番号 (5733WC5) を入力し、DEV フィールドに装置名を入力します。
19. 追加の WebSphere Commerce コンポーネントをインストールするために、OPTION (2) と RSTOBJ (*PGM) を入力してから、Enter を押します。オプション 2 がリストアされたことを示す確認メッセージが表示されます。これで、WebSphere Commerce Professional Edition のインストールが完了しました。
20.  WebSphere Commerce Business Edition をインストールする場合は、この後の残りのステップを実行する必要があります。コマンド行で RSTLICPGM と入力します。
21. PF4 を押してプロンプトを表示させます。
22. LICPGM フィールドに製品番号 (5733WC5) を入力し、DEV フィールドに装置名を入力します。
23. 追加の WebSphere Commerce Business Edition コンポーネントをインストールするために、OPTION (3) と RSTOBJ (*PGM) を入力してから、Enter を押します。オプション 3 がリストアされたことを示す確認メッセージが表示されます。これで、WebSphere Commerce Business Edition のインストールが完了しました。

第 3 部 WebSphere Commerce の構成作業

第 5 章 クイック構成コマンドによるインスタンスの作成

クイック構成コマンドを使用すれば、構成マネージャーのグラフィック・ユーザー・インターフェースを立ち上げなくても、インスタンスをすばやく作成することができます。その際、ネイティブの **CRTWCINST** コマンドを使用します。クイック構成コマンドによって、作業中のインスタンスをすばやく簡単に作成して実行することができます。クイック構成コマンドを使って作成されたインスタンスは、簡単に使用できるようにするために、構成マネージャー・ユーザー・インターフェースで利用できる拡張構成オプションの一部を使用しません。

拡張構成について、詳しくは *WebSphere Commerce* インストール・ガイド を参照してください。

前提事項と制約事項

クイック構成コマンドを使ってインスタンスを作成する場合、以下のような前提と制限があります。

- このコマンドによって、ポート 900 で listen するデフォルトの WebSphere Application Server インスタンスとしてインスタンスが作成されます。
- インスタンス・ディレクトリーは `/QIBM/UserData/WebCommerce/instances/instance_name` です。
- インスタンスは、サポートされている 10 言語ごとに、ブートストラップ・データをロードします。
- インスタンスはローカル・データベースを使用します。
- オークションは構成されません。オークションが必要な場合は、インスタンス作成後に構成マネージャーを立ち上げてオークションを構成する必要があります。
- Payment Manager の使用を選択した場合、クイック構成コマンドは、WebSphere Commerce インスタンスと同じ名前のローカル Payment Manager インスタンスを構成します。
- 正しい `file.encoding` プロパティを使って Java Virtual Machine が開始されていることを確認する必要があります。このプロパティは、11 ページの『iSeries ユーザー・プロファイルの作成』で定義したインスタンス・ユーザー・プロファイルのローカライズ設定と一致しなければなりません。確認するには、以下のステップを完了してください。
 1. DSPUSRPRF コマンドを使用して、SECOFR ユーザーのホーム・ディレクトリー (HOMEDIR) を判別します。HOMEDIR が存在することを確認してください。存在しない場合、これを作成する必要があります。
 2. HOMEDIR には、819 とタグ付けされ、ASCII データを含んでいる `SystemDefault.properties` という名前のファイルがなければなりません。このファイルで、ユーザー・プロファイルと一致する `file.encoding` プロパティを指定しなければなりません。 `file.encoding` プロパティは 1 行で指定し、スペースを含んではならず、大文字小文字を区別します。このファイルがすでに存在する場合、EDTF コマンドを使用して、 `file.encoding` プロパティを以下のいずれかの値に設定してください。

- 中国
file.encoding=Cp1381
- 韓国
file.encoding=KSC5601
- 台湾
file.encoding=Cp950
- 日本
file.encoding=SJIS
- その他のすべての言語
file.encoding=ISO8859_1

このファイルが存在しない場合、以下のいずれかのコマンドを使用して、**HOMEDIR** にコピーする必要があります。

- 中国
COPY OBJ('/QIBM/ProdData/WebCommerce/config/SystemDefault_CN.properties')
TOOBJ('home_directory/SystemDefault.properties')
- 韓国
COPY OBJ('/QIBM/ProdData/WebCommerce/config/SystemDefault_KR.properties')
TOOBJ('home_directory/SystemDefault.properties')
- 台湾
COPY OBJ('/QIBM/ProdData/WebCommerce/config/SystemDefault_TW.properties')
TOOBJ('home_directory/SystemDefault.properties')
- 日本
COPY OBJ('/QIBM/ProdData/WebCommerce/config/SystemDefault_JP.properties')
TOOBJ('home_directory/SystemDefault.properties')
- その他のすべての言語
COPY OBJ('/QIBM/ProdData/WebCommerce/config/SystemDefault.properties')
TOOBJ('home_directory/SystemDefault.properties')

3. ファイルが作成されたら、819 とタグ付けされていること、および適切な ASCII データが含まれていることを確認します。 **CRTWCSINST** コマンドを実行する前に、サインオフしてサインオンします。

クイック構成コマンドの起動

クイック構成コマンドを使ってインスタンスを作成するには、OS/400 コマンド・プロンプトで以下のように入力します。

```
CRTWCSINST INSTNAME(instance_name)
INSTPWD(instance_password)
INSTHOST(instance_hostname)
MERKEY(instance_merchant_key)
DFTLANG(instance_default)
USEPAYMENT(usePayment)
CNNCTTIME(connect_time)
PORT(port_number)
SERVERSTRT(serverStart)
SERVERSHUT(serverShutdown)
```

ここで

instance_name

作成したい WebSphere Commerce インスタンスの名前。現在は、9 文字までに制限されています。

instance_password

インスタンス・ユーザー・プロファイルのパスワード。現在は、10 文字までに制限されています。

instance_hostname

インスタンスの使用するホスト名 (非ゼロのストリング)。

instance_merchant_key

インスタンスの使用するマーチャント・キー (16 桁の16 進数で、大文字小文字を区別するストリング)。

instance_default

インスタンスのデフォルト言語。有効な値は *EN、 *FR、 *DE、 *IT、 *ES、 *PT、 *ZH_CN、 *ZH_TW、 *KO、 *JA。

usePayment

*YES オプションを指定すると、ローカル Payment Manager インスタンスが作成されます。「ローカル」とは、支払いインスタンスが WebSphere Commerce インスタンスと同じシステムにあり、 WebSphere Commerce インスタンスと同じインスタンス名、ホスト名 (つまり HTTP サーバー)、およびインスタンス・ライブラリーを使用することを意味します。 *NO オプションをここに指定すると、支払いインスタンスは作成されません。Payment Manager インスタンスのパスワードは、 WebSphere Commerce インスタンス・ユーザー・プロファイルのパスワードと同じです。

connect_time

接続時間 (分)。

serverStart

*YES オプションを指定すると、 CRTWCSINST が起動される前にバックグラウンドで構成マネージャー・サーバーが開始されます。 *NO オプションを指定すると、構成マネージャー・サーバーは開始されません。 *NO オプションにする場合、 CRTWCSINST コマンドを実行する前に STRWCSCFG コマンドを実行することによって、ユーザーが手動で構成マネージャー・サーバーを開始しなければなりません。デフォルトは *YES です。

serverShutdown

*YES オプションを指定すると、インスタンスが作成された後、構成マネージャー・サーバーが停止します。セキュリティ上の理由で、そうすることをお勧めします。 *NO オプションを指定すると、インスタンスが作成された後に、構成マネージャー・サーバーは停止しません。複数のインスタンスを作成している場合には、構成マネージャー・サーバーを再び開始しなくてもよいため、このオプションを使用するのがよいかもしれません。デフォルトは *YES です。

port_number

構成マネージャー・サーバーが listen するポート番号。デフォルトは 1099 です。

CRTWCSINST コマンドによって、バックグラウンドで実行されるジョブとして構成マネージャー・サーバーが開始され、その後、クイック構成プログラムが開始されます。最初に、クイック構成プログラムはサーバーへの接続を試みます。CNNCTIME 時間が過ぎてもサーバーに接続できない場合、このプログラムは終了します (CNNCTIME はユーザーが指定しますが、デフォルトは 5 分です)。サー

バーに接続した後、このプログラムは入力パラメーターを解析します。さらに、それぞれの入力の有効かどうかを検査します。その後、クイック構成プログラムはインスタンス構成 XML ファイルを作成し、さらに WebSphere Commerce インスタンスを作成します。インスタンスが正常に作成された場合は、「Successfully added instance to the instance list」というメッセージが Java シェル画面に表示されます。インスタンスが正常に作成されなかった場合には、「Failed to add instance. Please check the configuration log for more information」というメッセージが Java シェル画面に表示されます。

インスタンス作成の検証

インスタンスが正しく作成されたことを確認するには、以下のファイルを調べます。

- /QIBM/UserData/WebCommerce/instances/*instance_name*/xml/*instance_name.xml*。このファイルには、作成される WebSphere Commerce インスタンスについての構成情報がすべて入ります。
- /QIBM/UserData/WebCommerce/instances/*instance_name*/logs/schema.log。このファイルには、WebSphere Commerce データベース作成に関する情報が入ります。schema.err ログ・ファイルは存在すべきではありません。
- /QIBM/UserData/WebCommerce/instances/*instance_name*/logs/messages.txt /QIBM/UserData/WebCommerce/instances/*instance_name*/logs/RESWCSID.txt。これらのファイルには、WebSphere Commerce データベースにデータを入れる処理に関する情報が入ります。
- /QIBM/UserData/WebCommerce/instances/*instance_name*/logs/WASConfig.log。このファイルには、WebSphere Application Server 内で WebSphere Commerce の新しいインスタンスをインストールして構成する作業に関する情報が入ります。
- /QIBM/UserData/WebCommerce/instances/*instance_name*/logs/wcs.log。このファイルは、WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーの動作を記述するものです。このログを使用して、サーバーが正しく開始されたことを確認してください。
- /QIBM/UserData/WebCommerce/instances/*instance_name*/logs/CreatePayment.log (Payment Manager を使用している場合)。このファイルには、WebSphere Payment Manager インスタンス作成に関する情報が入ります。

JavaServer™ Pages ファイルのコンパイル

JavaServer Pages™ をコンパイルすれば、WebSphere Commerce ツールのロードにかかる時間が大幅に短縮されます。JavaServer Pages (JSP) ファイルのバッチ・コンパイルを実行するには、以下のようになります。

1. *SECOFR 権限を持ったユーザー・プロファイルを使用して、iSeries サーバーにログオンします。
2. 複数の JSP ファイルを一度にコンパイルするために、QSHHELL を使用して以下の一連のコマンドを実行します (それぞれのコマンドを 1 行で入力します)。

```
STRQSH
```

```
/QIBM/ProdData/WebCommerce/bin/WCSJspBatchCompiler  
-nameServerHost host_name
```



```
-enterpriseApp "instance_name - WebSphere Commerce  
Enterprise Application"  
-webModule 'WC Stores' -keepgenerated true  
  
/QIBM/ProdData/WebCommerce/bin/WCSJspBatchCompiler  
-nameServerHost host_name  
-enterpriseApp "instance_name - WebSphere Commerce  
Enterprise Application"  
-webModule "WC Tools" -keepgenerated true
```

ここで

host_name

ノードの名前。通常、これはマシンの短いホスト名です。このパラメーターは必須で、CFGTCP の オプション 12 のホスト名と同じでなければなりません。

instance_name

WebSphere Commerce インスタンスの名前。

これらのコンパイルを実行すると、いくつかのエラーがログに記録される場合があります。それらは無視してください。

次のステップ

WebSphere Commerce インスタンスを構成して開始した後、39 ページの『第 6 章 サンプル・ストア・アーカイブからストアを作成する』で説明されている手順に従ってストアを作成できます。WebSphere Commerce インスタンスを開始する必要がある場合は、47 ページの『付録 A. コンポーネントの開始と停止』を参照してください。

第 4 部 WebSphere Commerce によるストアの作成

第 6 章 サンプル・ストア・アーカイブからストアを作成する

この章では、WebSphere Commerce に付属のストア・アーカイブの 1 つからサンプル・ストアを作成するプロセスを示します。さらに別のストアの作成方法やストアのカスタマイズについては、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプをご覧ください。

WebSphere Commerce において、オンライン・ストアを作成するための最も速くて簡単な方法は、WebSphere Commerce に付属のサンプル・ストアの 1 つを使用し、ストア・サービスで利用できるブラウザー・ベースのツールを使用することで、サンプル・ストアは、ストア・アーカイブとして提供されています。

ストア・アーカイブは、ストアの作成に必要な資産すべて (Web 資産やデータベース資産を含む) が含まれている圧縮ファイルです。独自のストアを作成するには、サンプル・ストア・サービスの 1 つに基づいて、ストア・サービスのツールを使用して新しいストア・アーカイブを作成します。新しいストア・アーカイブはサンプル・ストア・アーカイブに基づくものなので、それはサンプル・ストア・アーカイブに含まれる資産の正確なコピーを、新しいファイル名およびディレクトリー構造で保存したものです。

この時点で、2 種類の選択肢があります。つまり、ストア・アーカイブをコマース・サーバーに対して発行することによりサンプル・ストアの 1 つに基づく機能的ストアを作成する方法と、まず新しいストア・アーカイブに変更を加えてから、それをサーバーに対して発行する方法です。

ストア・アーカイブ中のデータベース情報を変更するには、資産を直接編集するか、またはストア・サービスのツール (「ストア・プロファイル」ノートブック、「税」ノートブック、および「配送」ノートブック) を使います。

ストア・アーカイブに含まれる Web 資産 (ストア・ページ) を変更したり、新しい Web 資産を作成したりするには、WebSphere Commerce Studio のツール、またはその他の選択したツールを使用します。

ストアの作成については、*IBM WebSphere Commerce* ストア開発者ガイド をご覧ください。

サンプル・ストアのいずれかを使用してストアを作成するには、以下のようになります。

1. ストア・アーカイブを作成します。
2. ストア・アーカイブを発行します。

ストア・アーカイブの作成

サンプル・ストアのいずれかを使用してストア・アーカイブを作成するには、以下のようになります。

1. 以下のサーバーが実行中であることを確認してください。

- IBM HTTP Server ストア・インスタンス
- IBM HTTP Server ツール・インスタンス
- IBM WebSphere AdminServer
- Websphere Commerce Server *instance_name*

注: WebSphere Commerce Server *instance_name* が実行中かどうかを調べるには、WebSphere Commerce 管理コンソールを確認します。

2. WebSphere Application Server 管理コンソールで Payment Manager Application Server が開始済みであることを確認してください。
3. WebSphere Commerce インスタンスで使用する IBM Payment Manager のインスタンスを開始します。それには、次のようになります。
 - a. 次のようにして、iSeries コマンド・セッションをオープンします。
 - b. 以下のコマンドを入力します。

```
STRPYMMGR
```

Payment Manager インスタンスの名前とパスワードを入力するためのプロンプトが出されます。Payment Manager インスタンス名は、WebSphere Commerce インスタンス名と同じです。Payment Manager インスタンスのパスワードは、WebSphere Commerce インスタンスのパスワードと同じです。

4. Microsoft Internet Explorer 5.5 をオープンしてから以下の URL を入力して、「ストア・サービス」を開始します。

```
https://host_name.domain.com:8000/storeservices
```

「ストア・サービス・ログオン」ページが表示されます。デフォルトのインスタンス管理者ユーザー ID (wcsadmin) とデフォルトのパスワード (wcsadmin) を入力して、「ログオン」をクリックします。初回ログイン時に、パスワードを変更するよう促されます。

5. 「ストア・アーカイブの作成」ページが表示されます。「ストア・アーカイブ」フィールドに、ストア・アーカイブの名前を入力します。入力した名前には .sar という拡張子が追加されます (たとえば、Mystore.sar)。この名前がストア・アーカイブのファイル名になります。ストア・アーカイブの作成が終了すると、それは以下の場所に保管されます。

```
/QBIM/UserData/WebASAdv4/was_instance_name/installedApps/  
WC_Enterprise_App_wcinstancename.ear/wcstores.war/Mystore.sar
```

6. 「ストア・ディレクトリー」フィールドに、ストアのディレクトリー名を入力します。このディレクトリー名は、サーバー上で Web 資産の発行先となるディレクトリーを定義するものです。ストア・アーカイブが発行されると、デフォルトとして、それはここで定義するストア・ディレクトリーに発行されます。たとえば、「ストア・ディレクトリー」フィールドにディレクトリー名 "Mystore" を入力した場合、以下のディレクトリーが作成されます。

```
/QBIM/UserData/WebASAdv4/was_instance_name/installedApps/  
WC_Enterprise_App_wcinstancename.ear/wcstores.war/Mystore
```

7. **Business** 「ストア所有者」ドロップダウン・リストから、ストアを所有する組織を選択します (たとえば、「Seller Organization (セラー組織)」)。

注: 「デフォルト組織」は、バイヤー組織を持たない顧客のために提供されています。デフォルト選択をストア所有者として選択しないでください。
8. 「View (表示)」ドロップダウン・リストから、表示したいサンプル・ストアを選択します。
9. 「サンプル」リスト・ボックスから、ストアの基本となるストア・アーカイブを選択します。「サンプルの説明」ボックスに、サンプルの説明が表示されます。サンプル・ストアをまず表示するには、「プレビュー」をクリックします。
10. 「OK」をクリックします。
11. ストア・アーカイブの作成が正常に完了したことを知らせるダイアログ・ボックスがオープンします。「OK」をクリックします。
12. 「ストア・アーカイブの発行」リストが表示されます。作成したストア・アーカイブがリスト中表示されており、「ストア名」フィールドの名前がサンプル・ストアの名前と同じであることを注意してください。この名前は、「ストア・プロファイル」ノートブックを使って変更できます。

これで、サンプル・ストアに基づく新しいストア・アーカイブが作成されました。その結果、新しいストア・アーカイブには、サンプル・ストアと同じ内容が含まれることとなります。独自のストアを作成する場合は、その情報を変更することとなります。その情報を変更する方法については、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプと *IBM WebSphere Commerce* ストア開発者ガイド をご覧ください。このマニュアルでは、今のところその情報を変更しないでおいてください。

ストア・アーカイブの発行

ストア・アーカイブを WebSphere Commerce Server に対して発行すると、実際に稼働するストアを作成できます。ストア・アーカイブの発行には、2 種類の方法があります。

- ストア・サービスからストア・アーカイブを発行する
- コマンド行からストア・アーカイブを発行する

ここでは、ストア・サービスからの発行についてのみ説明します。発行について詳しくは、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプ、および *IBM WebSphere Commerce* ストア開発者ガイド をご覧ください。

ストア・サービスからストア・アーカイブを発行する

ストア・アーカイブを WebSphere Commerce Server に対して発行すると、実際に稼働するストアを作成できます。ストア・アーカイブを発行するには、以下のようになります。

1. 以下のサーバーが実行中であることを確認してください。
 - IBM HTTP Server ストア・インスタンス
 - IBM HTTP Server ツール・インスタンス
 - IBM WebSphere AdminServer

- Websphere Commerce Server *instance_name*

注: WebSphere Commerce Server *instance_name* が実行中かどうかを調べるには、 WebSphere Application Server 管理コンソールを確認します。

2. WebSphere Application Server 管理コンソールで Payment Manager Application Server が開始済みであることを確認してください。
3. 次のようにして、 WebSphere Commerce インスタンスで使われる IBM Payment Manager インスタンスを開始します。
 - a. 次のようにして、iSeries コマンド・セッションをオープンします。
 - b. 以下のコマンドを入力します。

```
STRPYMMGR
```

Payment Manager インスタンス名とパスワードを入力するようプロンプトで指示されます。 Payment Manager インスタンス名は、 WebSphere Commerce インスタンス名と同じです。 Payment Manager インスタンスのパスワードは、 WebSphere Commerce インスタンスのパスワードと同じです。

4. サイト管理者またはストア管理者のアクセス権が必要です。ストア管理者のアクセス権が付与されている場合は、すべてのストアに対するアクセス権があることを確認してください。
5. 「ストア・サービス」の「ストア・アーカイブ」リストで、発行したいストア・アーカイブの横のチェック・ボックスを選択します。
6. 「**Publish... (発行...)**」をクリックします。「ストア・アーカイブの発行」ページが表示されます。
7. 発行オプションを選択します。発行オプションについては、「ヘルプ」をご覧ください。

注: 十分に機能するストアを作成するためには、ストア・アーカイブを初めて発行する時点で、商品データ・オプションを含むすべての発行オプションを選択してください。

8. 「**OK**」をクリックします。ストアが発行されると、「ストア・アーカイブ」リストのページに戻ります。「発行の状況」の列に、発行の状態が示されます。システムの数によって、発行プロセスに数分かかることがあります。「**最新表示**」をクリックすると、状況が更新されます。
9. リストからストア・アーカイブを選択し、「**発行の要約**」をクリックすると、発行の結果が表示されます。
10. 発行が完了したら、「**ストアの立ち上げ**」をクリックしてストアを表示し、テストしてください。完了したら、そのサイトにブックマークを付けてブラウザをクローズします。

JavaServer Pages ファイルのコンパイル

JavaServer Pages のファイルをコンパイルすると、ストアのロードに必要な時間は大幅に短縮されます。 JavaServer Pages (JSP) ファイルのバッチ・コンパイルを実行するには、34 ページの『JavaServer™ Pages ファイルのコンパイル』を参照してください。

重要:

- 発行できるストア・アーカイブは、一度に 1 つだけです。複数同時の発行はサポートされておらず、同時発行すると、どのストアの発行も失敗します。
- 発行中に、整合性検査ルーチンにより、ストア・アーカイブによって参照されているファイルが存在するかどうかを確認されます。エラーがあると、ログにそのエラーが書き込まれます。発行は、通常のとおり継続されます。
- ストアを再発行する場合は、その前にディレクトリー
/QIBM/UserData/WebCommerce/instances/*instance_name*/cache からファイルを削除してください。

ストア開発段階では、キャッシングをオフにしてください。そうするには、構成マネージャーの「Caching (キャッシング)」パネルをオープンして、「Enable Cache (キャッシュの使用可能化)」が選択解除されていることを確認します。

- ストア・サービスからストアを立ち上げる場合、ストア・サービスへのログインで使用したのと同じユーザー名とパスワードを使用してストアにログインします。ストアでパスワードを変更すると、そのユーザーのパスワードも変更することになります。むしろ、パスワード変更操作などのストアの機能をテストするには、そのサイトをブックマークに登録し、ブラウザをクローズしてから、再びストアにログオンしてください。さらに、ブラウザで以下の URL を入力することによって、ストアを立ち上げることもできます。

https://host_name/webapp/wcs/stores/store_directory/index.jsp

ストアにテスト・オーダーを発行する

ストアにテスト・オーダーを発行するには、以下のようにします。

1. 以下のようにして、ストアをオープンします。
 - a. 「ストア・サービス」ウィンドウで、特定のストアを選択して「発行の要約」をクリックします。
 - b. 「発行の要約」画面で、「ストアの立ち上げ」を選択します。
 - c. ストアの Web アプリケーション Web パスを入力するためのウィンドウが表示されます。該当するパスを入力してください (デフォルトは /webapp/wcs/stores)。
 - d. ストアの場所を Web ブラウザーのブックマークに登録します。
 - e. 表示されているすべての Web ブラウザー・ウィンドウを閉じてから、改めて Web ブラウザーを開きます。
 - f. ストアのホーム・ページにナビゲートします。
2. ホーム・ページで、商品を選択します。商品ページで、「ショッピング・カートに追加」をクリックします。
3. オーダー・プロセスを完了します。テストとして、VISA クレジット・カードの番号 0000000000000000 (16 個のゼロ) を使用できるでしょう。オーダーが完了していれば、オーダーの確認のページが表示されます。

第 5 部 付録

付録 A. コンポーネントの開始と停止

インストール・プロセス中のさまざまな時点で、WebSphere Commerce のコンポーネントを開始および停止する必要があるが生じます。以下では、コンポーネントを正常に開始および停止する方法を説明します。

注: インスタンスを初めて開始するときには、開始に長い時間がかかります。このように時間がかかる原因は、Java プログラムに関する情報をキャッシュに入れているためです。したがって、最初は時間がかかるとしても、次回以降の始動時間は短縮されます。

WebSphere Commerce インスタンスを開始する

WebSphere Commerce インスタンスを開始する方法は 2 つあります。OS/400 システム・コマンドを実行するか、または WebSphere 管理コンソールを使用することができます。以下では、この両方の方法について説明します。

- OS/400 システム・コマンドを使って WebSphere Commerce インスタンスを開始するには、以下のコマンドを (1 行で) 実行します。

```
STRWCSSVR INSTNAME(instance_name)
```

ここで

instance_name

WebSphere Commerce インスタンス名 (構成マネージャーで指定された名前)。

注:

1. 管理サーバーのセキュリティーが使用可能になっている場合、49 ページの『機密保護機能のある環境での STRWCSSVR および ENDWCSSVR の使用』に示されているステップを必ず完了してください。
2. セキュリティーが使用可能になっていて、WebSphere Commerce インスタンスの開始時に次のエラーが出る場合は、以下のようになしてください。

```
Unexpected Java Exception: org.omg.CORBA.NO_PERMISSION: Failed mutual authentication handshake. Session does not exist in the session table
```

sas.server.props ファイルの com.ibm.CORBA.sessionGCinterval 設定を調整する必要があります。デフォルトでは、5 分に設定されています。そのファイルに com.ibm.CORBA.sessionGCinterval プロパティーが存在しない場合は、ファイルの末尾に追加してください。詳細については、以下の Web サイトを参照してください。

publib.boulder.ibm.com/was400/40/AE/english/docs/seccapp.html

- WebSphere 管理コンソールを使って WebSphere Commerce インスタンスを開始するには、以下のステップを行ってください。
 1. インスタンス・ユーザー・プロファイルを使用して、iSeries サーバーにログインします。
 2. OS/400 コマンド行から、以下を入力します。

WRKACTJOB SBS(QEJBADV4)

3. このサブシステム内にジョブが 1 つも存在しない場合、OS/400 コマンド行から以下を入力して、QEJBADMIN および QEJBMNTR が開始するまで待ちます。

STRSBS SBS(QEJBADV4/QEJBADV4)

これによって、サブシステムの終了時に実行されていたすべての WebSphere Application Server インスタンスも開始されます。

注: このコマンドは、デフォルトの WebSphere 管理サーバーのみを開始します。詳しくは、以下の Web アドレスを参照してください。

publib.boulder.ibm.com/was400/40/AE/english/docs/admmwas.html

4. QEJBADV4 が開始済みであるものの、目的の WebSphere Application Server インスタンスが QEJBADV4 の下にリストされていない場合には、以下のステップを実行して、その WebSphere Application Server インスタンスを開始する必要があります。

iSeries コマンド行から WebSphere Application Server インスタンスを開始する 以下のコマンドを 1 行で入力します。

```
SBMJOB CMD(QSYS/CALL PGM(QEJBADV4/QEJBMNTR) PARM('-p'  
'/QIBM/UserData/WebASAdv4/WAS_instance/  
properties/admin.properties')) JOB(MONITOR_JOB_NAME)  
JOBQ(QEJBADV4/QEJBJOBQ) JOBQ(QEJBADV4/QEJBJOBQ) USER(QEJB)
```

ここで、*WAS_instance* は WebSphere Application Server インスタンス名、*MONITOR_JOB_NAME* はモニター・ジョブ名 (10 文字以内)です。

QSHHELL から WebSphere Application Server インスタンスを開始する 以下のコマンドを入力します。

- a. STRQSH
- b. /QIBM/ProdData/WebASAdv4/bin/strwasinst -instance
WAS_instance

ここで、*WAS_instance* は WebSphere Application Server インスタンス名です。

5. 以下のようにして、WebSphere 管理コンソールから WebSphere Commerce インスタンスを開始します。

- a. Windows ワークステーションで MS-DOS コマンド・ウィンドウを開いて、以下のコマンドを実行します。

```
AdminClient host_name port_number
```

ここで、*host_name* は iSeries WebSphere Commerce マシンの完全修飾ホスト名 (大文字小文字を区別)、*port_number* は WebSphere Application Server に割り当てたポート番号です。

- b. 「**WebSphere Administrative Domain (WebSphere 管理可能ドメイン)**」を展開します。
- c. 「**Nodes (ノード)**」を拡張表示します。
- d. 「HOST_NAME」を拡張表示します。

- e. 「**Application Servers (アプリケーション・サーバー)**」を拡張表示します。
- f. 「**instance_name - WebSphere Commerce Server**」を右クリックして、「**開始**」を選択します。

WebSphere Commerce マシンの動作が遅い場合には、WebSphere Commerce インスタンスの開始を可能にするために、Ping タイムアウトと Ping 初期タイムアウトの値を増やしてください。そうするには、以下のステップを実行します。

1. Windows ワークステーションで MS-DOS コマンド・ウィンドウを開いて、以下のコマンドを実行します。
`AdminClient host_name port_number`
2. 「**HOST_NAME**」を拡張表示します。
3. 「**instance_name - WebSphere Commerce Server**」を選択してから、「**拡張**」タブを選択します。
4. マシンの速度に応じて、Ping タイムアウトおよび Ping 初期タイムアウトの値を増やします。デフォルト値は、Ping タイムアウトが 100000 秒、Ping 初期タイムアウトが 150000 秒です。
5. 「**適用**」をクリックします。

機密保護機能のある環境での STRWCSSVR および ENDWCSSVR の使用

管理サーバーのセキュリティーが使用可能になっている場合に STRWCSSVR および ENDWCSSVR を使用するには、以下のステップを実行する必要があります。

1. プロパティ・ファイル `sas.client.props` を編集のために開きます。このファイルは、管理サーバーのインスタンス・ルートの `properties` サブディレクトリにあります。デフォルト管理サーバーの場合、このファイルは `/QIBM/UserData/WebASAdv4/default/properties` ディレクトリにあります。
2. 以下のようなプロパティとその値を編集または追加します。

```
com.ibm.CORBA.loginSource=properties
com.ibm.CORBA.loginUserId=user_id
com.ibm.CORBA.principalName=domain/user_id
com.ibm.CORBA.loginPassword=password
```

ここで

user_id

ユーザー ID

domain

ドメイン・ネーム

password

指定したユーザー ID のパスワードです。パスワードには、暗号化していない適切な値を指定してください。

3. PropFilePasswordEncoder ユーティリティーを使って、パスワードをエンコードします。
 - a. OS/400 コマンド行で STRQSH と入力して、QShell 環境を開始します。
 - b. 以下のコマンドを 1 行で入力します。

```
/QIBM/ProdData/WebASAdv4/bin/PropFilePasswordEncoder  
/QIBM/UserData/WebASAdv4/wasinstanceName/properties/sas.client.props -SAS
```

エンコード・アルゴリズムは、`admin.properties` ファイルにあります。デフォルト設定は XOR です。OS/400 パスワード・エンコード・アルゴリズムを使用する場合は、以下の Web サイトで詳細を確認してください。

publib.boulder.ibm.com/was400/40/AE/english/docs/secpmgt.html

WebSphere Commerce インスタンスの停止

WebSphere Commerce インスタンスを停止する方法は 2 つあります。OS/400 システム・コマンドを実行するか、または WebSphere 管理コンソールを使用することができます。以下では、この両方の方法について説明します。

- OS/400 システム・コマンドを使って WebSphere Commerce インスタンスを停止するには、以下のコマンドを実行します。

```
ENDWCSSVR INSTNAME(instance_name)
```

ここで

instance_name

WebSphere Commerce インスタンス名 (構成マネージャーで指定された名前)。

管理サーバーのセキュリティーが使用可能になっている場合、49 ページの『機密保護機能のある環境での STRWCSSVR および ENDWCSSVR の使用』に示されているステップを必ず完了してください。

- WebSphere 管理コンソールを使って WebSphere Commerce インスタンスを停止するには、以下のステップを行ってください。

1. Windows ワークステーションで MS-DOS コマンド・ウィンドウを開いて、以下のコマンドを実行します。

```
AdminClient host_name port_number
```

ここで、*host_name* は iSeries WebSphere Commerce マシンの完全修飾ホスト名 (大文字小文字を区別)、*port_number* は WebSphere Application Server に割り当てたポート番号です。

2. 「HOST_NAME」を拡張表示します。
3. 「*instance_name* - WebSphere Commerce Server」を右クリックして、「停止」を選択します。
4. サーバーが正常に停止したことを通知するメッセージが表示されます。この WebSphere Commerce インスタンスは、iSeries システムの QEJBADV4 サブシステムの下にリストされなくなります。

IBM HTTP Server の開始と停止

IBM HTTP Server インスタンスの開始

WebSphere Commerce インスタンスに関連付けられている IBM HTTP Server インスタンスは 2 つあります。1 つはストア HTTP サーバー、もう 1 つはツール

HTTP サーバーです。このように区別する目的は、セキュリティー上の問題を事前に回避するために、ツール HTTP サーバーへのアクセスを使用不可にするためです。

それぞれの IBM HTTP Server インスタンスは、コマンド行または Web ブラウザーのどちらからでも開始できます。

以下の説明では、*web_server_instance_name* が WebSphere Commerce インスタンスの名前に該当します。

コマンド行から IBM HTTP Server ストア・インスタンスを開始するには、以下のようになります。

1. インスタンス・ユーザー・プロファイルを使用して、iSeries にログオンします。
2. コマンド行から、以下を入力します。

```
STRTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(web_server_instance_name)
```

コマンド行から IBM HTTP Server ツール・インスタンスを開始するには、以下のようになります。

1. インスタンス・ユーザー・プロファイルを使用して、iSeries にログオンします。
2. コマンド行から、以下を入力します。

```
STRTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(web_server_instance_nameT)
```

注: ツール HTTP サーバー・インスタンスを開始することを明示するために、文字 T を *web_server_instance_name* の末尾に付加する必要があります。

Web ブラウザーからいずれかの IBM HTTP Server インスタンスを開始するには、以下のようになります。

1. OS/400 コマンド行で以下のように入力して、HTTP 管理者サーバー・インスタンスが実行中であることを確認します。

```
WRKACTJOB SBS(QHTTPSVR)
```

このサブシステムに ADMIN ジョブが存在していることを確認します。HTTP 管理者サーバー・インスタンスが実行中になっていない場合は、OS/400 コマンド行で以下のように入力して、そのインスタンスを開始します。

```
STRTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(*ADMIN)
```

2. HTTP 管理者サーバー・インスタンスが開始したら、以下の URL に進みます。

```
https://host_name:2010
```

ここで、2010 は Web 構成サーバー・ポートです。非セキュア HTTP 管理者サーバーをポート 2001 で使用している場合は、代わりに以下の URL を入力します。

```
http://host_name:2001
```

非セキュア・ポートを使用する場合、パスワードその他の情報は暗号化されません。

3. 「IBM HTTP Server for iSeries」をクリックします。

4. 「**Configuration and Administration (構成と管理)**」リンクをクリックします。
5. 「**Server Instances (サーバー・インスタンス)**」を選択します。
6. 「**Work with server instances (サーバー・インスタンスの作業)**」を選択します。
7. ドロップダウン・リストから、開始したい Web サーバー・インスタンスを選択して、「**開始**」をクリックします。

注: ツール HTTP サーバー・インスタンスは、 `web_server_instance_name` の後に `T` が付加されます。

8. 検査のために、OS/400 コマンド行から以下を入力します。

```
WRKACTJOB SBS(QHTTSPVR)
```

そして、**Subsystem/Job** ヘッダーの下の Web サーバー・インスタンスに関するエントリー、および **User** ヘッダーの下の QTMHHTTP を検索します。

IBM HTTP Web Server インスタンスの停止

IBM HTTP Web Server インスタンスは、コマンド行または Web ブラウザーのいずれからでも停止できます。

以下の説明では、 `web_server_instance_name` が WebSphere Commerce インスタンスの名前に該当します。

コマンド行からストア HTTP サーバー・インスタンスを停止するには、以下のようになります。

1. インスタンス・ユーザー・プロファイルを使用して、iSeries サーバーにログオンします。
2. コマンド行から、以下を入力します。

```
ENDTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(web_server_instance_name)
```

コマンド行からツール HTTP サーバー・インスタンスを停止するには、以下のようになります。

1. インスタンス・ユーザー・プロファイルを使用して、iSeries サーバーにログオンします。
2. コマンド行から、以下を入力します。

```
ENDTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(web_server_instance_nameT)
```

注: ツール HTTP サーバー・インスタンスを開始することを明示するために、文字 `T` を `web_server_instance_name` の末尾に付加する必要があります。

Web ブラウザーからいずれかのインスタンスを停止するには、以下のようになります。

1. 以下を入力します。

```
https://host_name:2010
```

注: 非セキュア HTTP 管理者サーバーをポート 2001 で使用している場合は、代わりに以下の URL を入力します。

`http://host_name:2001`

非セキュア・ポートを使用する場合、パスワードその他の情報は暗号化されません。

2. 「**IBM HTTP Server for iSeries**」をクリックします。
3. 「**Configuration and Administration (構成と管理)**」リンクをクリックします。
4. 「**Server Instances (サーバー・インスタンス)**」を選択します。
5. 「**Work with server instances (サーバー・インスタンスの作業)**」を選択します。
6. ドロップダウン・リストから、停止したい Web サーバー・インスタンスを選択して、「**停止**」をクリックします。

注: ツール HTTP サーバー・インスタンスは、`web_server_instance_name` の後に `T` が付加されます。

7. 検査のために、OS/400 コマンド行から以下を入力します。

```
WRKACTJOB SBS(QHTTSPVR)
```

そして、**Subsystem/Job** ヘッダーの下に Web サーバー・インスタンスのエントリが存在しないこと、および **User** ヘッダーの下に QTMHHTTP が存在しないことを確認します。

IBM HTTP Administrator の開始と停止

HTTP Administrator サーバー・インスタンスを開始するには、以下のようになります。

1. インスタンス・ユーザー・プロファイルを使用して、iSeries にログオンします。
2. コマンド行から、以下を入力します。

```
STRTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(*ADMIN)
```

3. 検査のために、OS/400 コマンド行から以下を入力します。

```
WRKACTJOB SBS(QHTTSPVR)
```

サーバーが正常に開始された場合は、**Subsystem/Job** ヘッダーの下に **ADMIN** が、**User** ヘッダーの下に QTMHHTTP がそれぞれ表示されます。

HTTP Administrator サーバーのポート番号は 2010 です。

注: さらに、HTTP Administrator サーバー・インスタンスの非セキュア接続用にポート 2001 も使用できます。非セキュア・ポートを使用する場合、パスワードその他の情報は暗号化されません。

HTTP Administrator サーバー・インスタンスを停止するには、以下のようになります。

1. インスタンス・ユーザー・プロファイルを使用して、iSeries サーバーにログオンします。
2. コマンド行から、以下を入力します。

ENDTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(*ADMIN)

3. 検査のために、OS/400 コマンド行から以下を入力します。

WRKACTJOB SBS(QHTTSPVR)

そして、**Subsystem/Job** ヘッダーの下に ADMIN のエントリーが存在しないこと、および **User** ヘッダーの下に QTMHHTTP が存在しないことを確認します。

HTTP Administrator サーバーのポート番号は 2010 です。

注: さらに、HTTP Administrator サーバー・インスタンスの非セキュア接続用にポート 2001 も使用できます。非セキュア・ポートを使用する場合、パスワードその他の情報は暗号化されません。

Payment Manager の開始と停止

Payment Manager を開始するには、『Payment Manager Engine の開始』の説明に従って、Payment Engine を開始します。

Payment Manager Engine の開始

Payment Manager を開始する方法には 2 つあります。以下のとおりです。

OS/400 Tasks ページを使用する

1. Web ブラウザーの URL フィールドに *hostname:2001/* と入力して、OS/400 Tasks ページにアクセスします。Tasks ページにアクセスするには、IBM HTTP Administrator サーバー・インスタンスが開始済みでなければなりません。
2. 「**IBM WebSphere Payment Manager for AS/400**」を選択します。
3. ドロップダウン・メニューから、Payment Manager インスタンスを 1 つ選択します。
4. 「**Start/End (開始 / 終了)**」を選択します。
5. 必要に応じて Payment Manager インスタンス・パスワードを入力した後、「**開始**」をクリックします。

OS/400 コマンド行を使用する

Payment Manager を開始するには、**STRPYMMGR** コマンドを使用します。

Payment Manager Engine が開始されるとき、対応する IBM HTTP Server および WebSphere Payment Manager アプリケーション・サーバーもまた開始されます。これらのプロセスがアクティブであることを検査するために、アクティブ・ジョブの作業 (**WRKACTJOB**) コマンドを発行してください。

- Payment Manager Engine は、QSYSWRK サブシステムの下で Payment Manager インスタンス名を持つジョブとして実行されます。このジョブは、Payment Manager インスタンスが正常に開始された後、自動的に終了します。
- IBM HTTP Server は、QHTTSPVR サブシステムの下で Payment Manager インスタンス名を持つ複数のジョブとして実行されます。
- WebSphere Payment Manager アプリケーション・サーバーは、QEJBADV4 サブシステムの下で PYM_ という名前のジョブとして実行されます。

Payment Manager ユーザー・インターフェースへのアクセス

Payment Manager Engine と WebSphere Payment Manager アプリケーション・サーバーを開始した後、以下のようにして Payment Manager ユーザー・インターフェースにアクセスします。

1. 以下の Web アドレスに移動します。

`http://host_name/PaymentManager/`

ここで、*host_name* は Payment Manager インスタンスのホスト名です。

2. 「Payment Manager Logon」ウィンドウで、Payment Manager 管理者のユーザー ID およびパスワードを入力して、「**OK**」をクリックします。デフォルトのユーザー ID とパスワードは、どちらも `wcsadmin` です。

Payment Manager ユーザー ID の作成方法については、以下の資料を参照してください。

- WCSRealm を使用している場合は、WebSphere Commerce のオンラインヘルプを参照してください。Payment Manager 管理者のユーザー ID が `wcsadmin` であれば、WCSRealm を使用していることになります。
- PSOS400Realm を使用している場合は、Payment Manager 管理者ガイドを参照してください。Payment Manager 管理者のユーザー ID が `QPYMADM` であれば、PSOS400Realm を使用していることになります。

ヒント: Payment Manager ユーザー・インターフェース機能の一部には WebSphere Commerce の管理コンソールからアクセスすることもできます。

Payment Manager の停止

Payment Manager を停止する方法には 2 つあります。以下のとおりです。

OS/400 Tasks ページを使用する

1. iSeries Tasks ページにアクセスする
2. 「**Payment Manager for iSeries Tasks**」Web ページを選択します。
3. ドロップダウン・メニューから、Payment Manager インスタンスを 1 つ選択します。
4. 「**Start/End (開始 / 終了)**」を選択します。
5. 必要に応じてパスワードを入力した後、「**End (終了)**」をクリックします。

OS/400 コマンド行を使用する

Payment Manager を停止するには、**ENDPYMMGR** コマンドを使用します。

上記の 2 つの方法によって、WebSphere Payment Manager アプリケーション・サーバーが停止します。他のアプリケーションが同じ HTTP サーバーを使用している可能性があるため、IBM HTTP Server は停止されません。

WebSphere Application Server を使って Payment Manager サードレットを停止する

WebSphere Application Server 4.0 の使用時には、Payment Manager アプリケーション・サーバーを停止することによって、すべてのサードレットを停止できます。WebSphere Payment Manager アプリケーション・サーバーを停止するには、次のようになります。

1. WebSphere Application Server Administration Client に移動します。
2. 「**WPM** *instance_name* **WebSphere Payment Manager**」を選択します。
3. アプリケーション・サーバーを右クリックして、「**停止**」を選択します。
4. Administration Client を終了します。

付録 B. 情報の入手場所

WebSphere Commerce システムとそのコンポーネントに関するさらに詳しい情報は、さまざまな情報源からさまざまな形式で入手できます。この後の部分では、利用できる情報と利用方法を示します。

WebSphere Commerce の情報

以下は、WebSphere Commerce に関する情報源です。

- WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ
- WebSphere Commerce PDF (Portable Document Format) ファイル
- WebSphere Commerce Web サイト

オンライン・ヘルプの使用

WebSphere Commerce のオンライン情報は、WebSphere Commerce のカスタマイズ、管理、および再構成に関する主要な情報源です。WebSphere Commerce のインストール後、以下の URL にアクセスすることによって、オンライン情報のトピックを利用できます。

`http://host_name/wchelp/`

host_name は、WebSphere Commerce のインストール先マシンの完全修飾 TCP/IP 名です。

印刷可能なドキュメンテーションの入手方法

一部のオンライン情報は、PDF ファイルの形式で利用することもできます。PDF ファイルは Adobe® Acrobat® Reader を使って表示および印刷できます。Acrobat Reader は、Adobe Web サイトから無料でダウンロードできます。Web アドレスは以下のとおりです。

`http://www.adobe.com`

WebSphere Commerce Web サイトの閲覧

WebSphere Commerce 製品に関する情報は、以下の WebSphere Commerce Web サイトで入手できます。

`http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/`

このマニュアル (すべてのアップデート・バージョンを含む) は、WebSphere Commerce Web サイトの「Library」セクションから PDF ファイル形式で入手できます。さらに、新しい資料や更新された資料をこの Web サイトから入手できる場合もあります。

IBM HTTP Server の情報

IBM HTTP Server の情報は、以下の Web アドレスで入手できます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/httpservers/>

資料は、HTML 形式、PDF ファイル、あるいはその両方で入手できます。

Payment Manager の情報

Payment Manager の資料は、Payment Manager のインストール後に「Payment Manager Tasks」の Web ページから入手できます。これは、http://host_name:2001 にある「AS/400 Tasks Page」からアクセスできます (host_name は、AS/400 システムの TCP/IP ホスト名)。ナビゲーション・フレームのリンク名は、「**文書**」です。

Payment Manager に関する追加情報は、以下の Payment Manager Web サイトのライブラリー・リンクから入手できます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/payment>

Payment Manager のドキュメンテーションとしては、以下のものを利用できます。

- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms インストール・ガイド* (PDF ファイル形式、paymgrinstall.pdf)
- *IBM WebSphere Payment Manager 管理者ガイド* (PDF ファイル形式、paymgradmin.pdf)
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms プログラマーのガイドとリファレンス* (PDF ファイル形式、paymgrprog.pdf)
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms for SET™ 補足* (PDF ファイル形式、paymgrset.pdf)
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms Cassette for VisaNet Supplement* (PDF ファイル形式、paymgrvisanet.pdf)
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms for CyberCash 補足* (PDF ファイル形式、paymgrcyber.pdf)
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms for BankServACH Supplement* (PDF ファイル形式、paymgrbank.pdf)
- Payment Manager の README ファイル (HTML 形式、readme.framework.html)
- IBM Cassette for SET の README ファイル (HTML 形式、readme.set.html)
- IBM Cassette for VisaNet README ファイル (HTML 形式、readme.visanet.html)
- IBM Cassette for CyberCash README ファイル (HTML 形式、readme.cybercash.html)
- IBM Cassette for BankServACH README ファイル (HTML 形式、readme.bankservach.html)

WebSphere Commerce オンライン・ヘルプの「*Secure Electronic Transactions*」セクションにも、Payment Manager に関する情報が含まれています。

WebSphere Application Server

WebSphere Application Server に関する情報は、以下の WebSphere Application Server Web サイトで入手できます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv>

DB2 ユニバーサル・データベースの情報

DB2 の文書は、以下の Web アドレスで入手できます。

<http://www.ibm.com/software/data/db2>

ダウンロード可能なツール

WebSphere Commerce Installation and Configuration Checker

WebSphere Commerce Installation and Configuration Checker (IC Checker) は、スタンドアロンのダウンロード可能な問題判別ツールです。これを使用して、WebSphere Commerce のインストールと構成を検査することができます。IC Checker は構成データとログを収集して、簡単なエラー検査を実行します。以下に、WebSphere Commerce IC Checker についての説明を示します。

- 現在サポートされている製品は、WebSphere Commerce Suite 5.1 Start Edition と Pro Edition、WebSphere Commerce 5.1 Business Edition、および WebSphere Commerce 5.4 Professional Edition と Business Edition です。
- このツールは、以下の URL でアクセスしてダウンロードすることができます。

http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/whats_new_support.html

http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_be/support-tools.html

その他の IBM 出版物

ほとんどの IBM 出版物は、IBM 指定販売業者または IBM の営業担当員にお問い合わせいただくことにより、購入できます。

付録 C. プログラム仕様と所定稼働環境

このバージョンの WebSphere Commerce では、以下の稼働環境がサポートされています。

- OS/400 for iSeries V5R1

WebSphere Commerce 5.4 には、以下のコンポーネントが含まれています。

WebSphere Commerce Server

WebSphere Commerce Server は、e-commerce ソリューション内のストアおよびコマース関連機能を処理します。以下のコンポーネントによって機能が提供されています。

- ツール (ストア・サービス、ローダー・パッケージ、Commerce Accelerator、管理コンソール)
- サブシステム (カタログ、メンバー、ネゴシエーション、オーダー)
- 商品アドバイザー
- 共通サーバー・ランタイム
- システム管理
- メッセージング・サービス
- WebSphere Application Server

ストア・サービス

ストア・サービスは、ストアの特定の運用機能を作成したり、カスタマイズしたり保守するための中心点を提供します。

ローダー・パッケージ

ローダー・パッケージを使用すると、ASCII および XML ファイルによる商品情報の初期ロードが可能になります。また、全体情報、または部分的な情報のインクリメンタル更新もできます。オンライン・カタログを更新するには、このツールを使用します。

WebSphere Commerce Accelerator

ストア・データおよび商品データが作成されたら、それを WebSphere Commerce Accelerator で使用して、ストアを管理し、ビジネス戦略を促進します。WebSphere Commerce Accelerator は、WebSphere Commerce がオンライン・ストアを運営するために配布するすべての機能 (ストア管理、商品管理、マーケティング、顧客のオーダー、顧客サービスなど) のための統合ポイントを提供します。

WebSphere Commerce 管理コンソール

サイト管理者またはストア管理者は、管理コンソールを使うことによって、サイトおよびストアの構成に関連したタスクを実行できます。

- ユーザーおよびグループの管理 (アクセス・コントロール)
- パフォーマンス・モニター
- メッセージングの構成
- IBM WebSphere Payment Manager の機能

- Brokat Blaze Rules の管理

WebSphere Commerce 5.4 には、以下の製品がバンドルおよびサポートされています。

IBM Payment Manager 3.1.2

Payment Manager は、SET (Secure Electronic Transaction) や Merchant Originated Payment など、さまざまな方法を使用したマーチャント用リアルタイム・インターネット支払い処理を提供します。

WebSphere Application Server 4.0

WebSphere Application Server は、インターネットおよびイントラネット Web アプリケーションを作成、デプロイ、管理するための Java ベースのアプリケーション環境です。

IBM WebSphere Commerce Analyzer 5.4

IBM WebSphere Commerce Analyzer は、WebSphere Commerce のオプションとしてインストールされる新しい機能です。IBM WebSphere Commerce Analyzer のエントリー版 (WebSphere Commerce 専用) は、顧客プロフィールやキャンペーン・パフォーマンスのモニターのためのレポート機能を提供します。レポートはカスタマイズできません。IBM WebSphere Commerce Analyzer は、Brio Broadcast Server がなければインストールできません。

Brio Broadcast Server

Brio Broadcast Server は、照会の処理およびレポートの配布を自動化するバッチ処理サーバーです。Brio Broadcast Server は大量のデータを大勢の人々に配布できますが、セキュリティー保護が製品に組み込まれているので、管理者はデータベースへのアクセスおよび文書の配布を厳重に制御できません。

Segue SilkPreview 1.0

Segue SilkPreview は、アプリケーション開発の総合的な結果分析とレポートのための情報リポジトリです。

WebSphere Commerce 5.4 Recommendation Engine powered by LikeMinds

Macromedia LikeMinds は、個々の Web 利用者に対して、商品推奨とターゲットを絞った販売促進を行います。これは、共同フィルター操作および市場バスケット分析に基づく、Personalization サーバーです。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、米国以外の国においては本書で述べる製品、サービス、またはプログラムを提供しない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品、プログラムまたはサービスの操作性の評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。IBM 製品、プログラムまたはサービスに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない機能的に同等のプログラムまたは製品を使用することができます。ただし、IBM によって明示的に指定されたものを除き、他社の製品と組み合わせた場合の動作の評価と検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む。) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権の許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木 3-2-31

IBM World Trade Asia Corporation

Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

本書は定期的に見直され、必要な変更 (たとえば、技術的に不適切な表現や誤植など) は、本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとしません。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Canada Ltd.
Office of the Lab Director
8200 Warden Avenue
Markham, Ontario
L6G 1C7
Canada

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この製品で使用されているクレジット・カードのイメージ、商標、商号は、そのクレジット・カードを利用して支払うことを、それら商標等の所有者によって許可された人のみが、使用することができます。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

IBM	@server	iSeries
400	DB2	DB2 Universal Database
WebSphere		

Notes、および Lotus は、Lotus Development Corporation の商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Action Media、LANDesk、MMX、Pentium および ProShare は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

SET、SET ロゴ、SET Secure Electronic Transaction および Secure Electronic Transaction は、SET Secure Electronic Transaction LLC の商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group がライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。



部品番号: CT13QJA

Printed in Japan

GC88-9276-00



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12

(1P) P/N: CT13QJA

